



生まれ。全国一の畳表の産地で、家業も畳表を扱っていた。陸軍士官学校を出た有田さんは、戦後公職追放で官職に就けず、家業を手伝うようになる。そして最大の消費地・東京に出て営業店舗を構えていた長兄に続き、昭和二十三年に妻と幼子連れで上京。長兄に甘えず、販売シェアを分けるかたちで、有田さんのほうは日暮里に新しく店を構えた。

「物資不足の時代、仕入れは産地直結なので、順調に伸びていききました」

やがて都市住宅の変遷に応じ、畳表から床タイル・クロス

①丹精込めてつくった露天岩風呂で湯三昧。お客さんが入っていない時間を選ぶが、やはりいちばんくつろぐひとときだ。②高鶴山荘の前で有田光雄さんと民宿を手伝う山口美枝子さん。

張りなど室内装飾関係に事業を転換。これも時流に乗った。こうして数十年、兄弟や息子たちと力を合わせて事業にいそしんできた有田さんも、人生の節目を迎える。四人いる息子さんのうち二人に経営を譲り、隠居を

決めたのだ。長年共に歩んできた奥さんはすでに亡くなられていた。

「七十二歳のときです、いつまでも同じことはできないと思うようになったのは。千葉に営業所を持っていた弟の山荘がたまたま天津小湊にあり、一年半ほど留守番がてらいました。そのとき郷里と似て温暖で、大好物の海の幸も新鮮な房総が好きになり、移り住む気になったのです」

そうして今の土地を得て、民宿経営まで決断。枯れた隠居生活”とはほど遠くなっていく。新居は民宿ができる広さに建てる。駐車場など土地も整備する。さらには、民宿に来てもらうなら温泉もあればいいな、と構想が広がるにつれ、新たな事業意欲が頭をもたげていたのだ。

「郷里にはたまに帰ります。兄弟がいますし、こちらに家を建てたらどうかと言われました。でも、何かやりたい気持ちがあったので、郷里に引きこもれなかったのです」

料理と部屋はホテル並み 料金は民宿以下！

では、温泉はどう手当てしたのか。

「隣のボーリング業者を紹介され、ここも少し試し掘りをしてもらいました。そうしたら温泉が出る可能性は少ない、と。

その後、以前いた天津小湊の近所の人に畑用に井戸を掘ってほしいと頼まれて。業者に掘ってもらって分析したら、どうやら温泉成分があるとわかりました。その土地を借りることにし、七五坪ほど掘ったら出ましたよ」

何と運のいい話だろうか。清澄山に近いその付近は粟斗温泉もあり、多少湯脈のあるところだとは、有田さんも考えていた。最新技術を駆使する近年の温泉掘削は、「山師の世界」や「夢のお告げ」次元ではなくなっている。そうは言っても房総半島は温泉の乏しいエリアに変わりはしない。

有田さんの土地は高鶴山という小山の斜面にあり、新居兼民宿を「高鶴山荘」と命名したため、掘り当てた温泉名も「たかつる温泉」とした。泉温は高くないが、肌がすべすべする「美肌湯」の成分である重碳酸ソーダ(重曹)やメタ珪酸が規定量以上含まれる。湯量も少なくない。この源泉を定期的にタンク車で運び、男女別の浴室と、見晴らしのいい庭先に今年六月に完成